

福井県高浜町高浜漁港 PR資料

【地域の概要】

- 福井県の最西端の京都府との県境に位置し、京都府舞鶴市、福井県小浜市という観光拠点には含まれた町である。若狭湾に面し、古来、京阪神の海水浴場として有名であり、BLUEFLAG※1認証の若狭和田ビーチを始め、町内には8つのビーチを抱え、多くの来訪者を呼んでいる。
- 高浜町の産業は、農業、漁業、観光業、関西電力（株）高浜発電所の立地による建設業や電気事業などが主なものとなっている。
- 令和2年の高浜町の人口、世帯数（国勢調査）は、10,326人、4,491世帯（2.26人／世帯）で、人口高齢化率は32.0%程である。人口は平成2年(12,425人)以降、一貫して減少傾向であり、高齢化も継続している。国立社会保障人口問題研究所によれば、今後も人口縮小と高齢化が継続すると予測している。
- このような状況に鑑み、高浜町では人口減少や少子高齢化対応として、平成21年に「高浜町コンパクトシティ構想」が策定され、町の中心市街地を背後に持つ高浜漁港は、にぎわい・景観系と位置付けられており、高浜水産業振興協議会による検討を経て、漁港の再整備が進められ、令和3年に6次産業施設UMIKARA、令和5年には旧荷捌所が移転し、衛生管理型の新たな荷捌所が完成した。



※1：海辺の国際環境認証「Blue Flag」とは、デンマークに本部がある国際NGO FEE（国際環境教育基金）による世界で最も歴史ある国際認証制度で、1985年にフランスで誕生し、2023年5月現在、世界51か国、5,036か所が取得している。特にヨーロッパでの認知度は高く、ブルーフラッグビーチは「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れている。ブルーフラッグは、①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスなどの分野、30以上の項目の認証基準を達成すると取得でき、毎年の審査を通じて、ビーチやマリーナ等における持続可能な発展を目指している。



写真：UMIKARA

【漁業の概要】

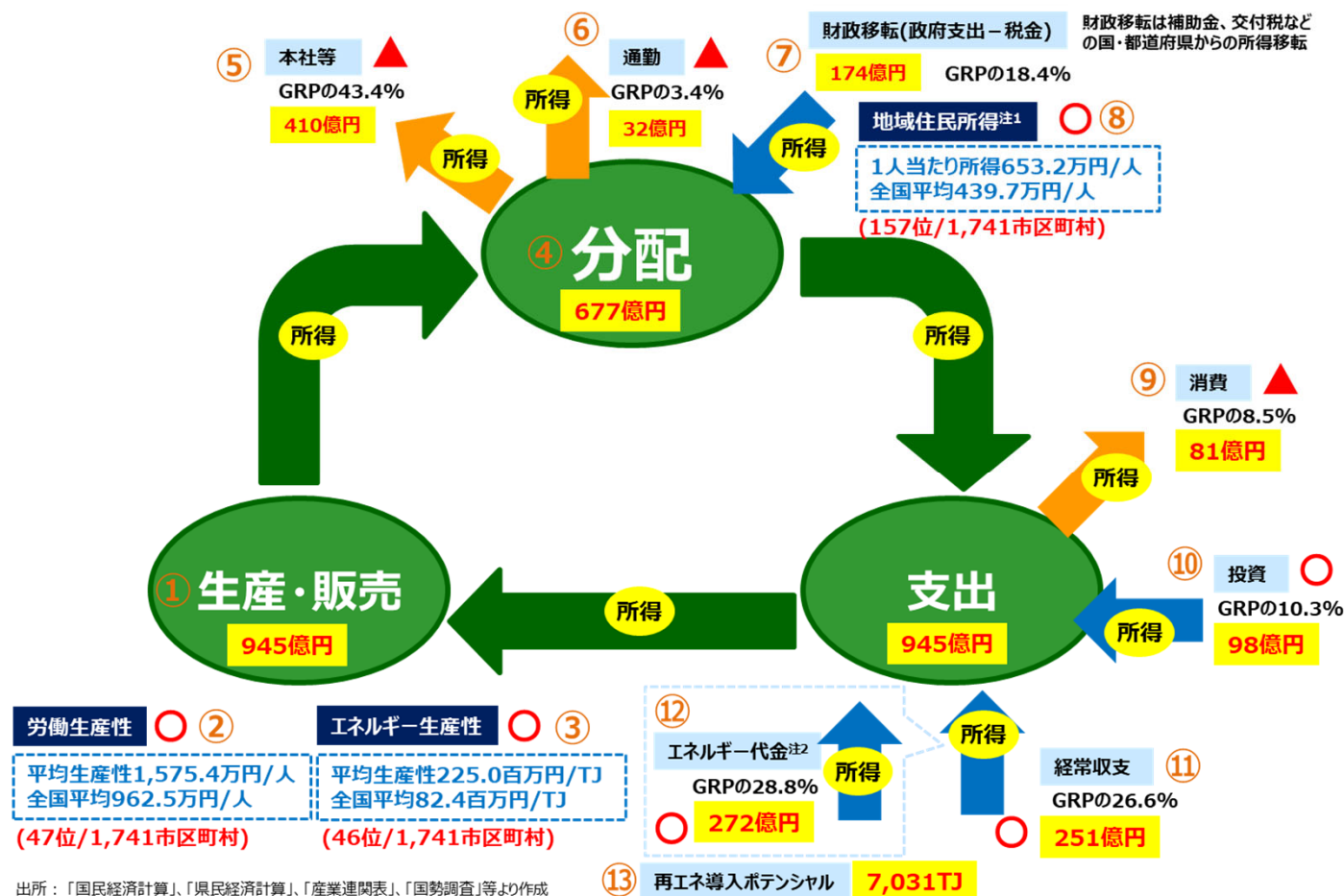
- 現在の若狭高浜漁協は、平成13年に町内5漁協が合併し誕生したもので、漁協本所は、町の中心市街地の沿岸に立地する第2種高浜漁港内にある。町全体では、和田地区、内浦地区等に旧漁協単位で多くの漁港等生産地が立地している。
- 中核となっている高浜漁港では、小型定置網、曳縄、刺網、一本釣等の沿岸漁業が営まれ、和田地区に根拠を持つ漁協自営定置網の陸揚港にもなっている。一方、内浦湾では原発温排水を利用した魚類養殖が盛んである。
- 内浦地区の魚類養殖を除き、高浜漁港に水揚げまたは陸送される町内の漁業は、天然資源依存型の沿岸漁船漁業のため、漁獲変動が著しく、単価も安定しておらず、基本的には縮減傾向にあり、漁業就業者の縮小・高齢化も進行している。
- このような状況の中、若狭高浜町漁協も関係しながら、6次産業化施設（UMIKARA）で、直売所・レストランの営業が開設されているが、漁協経営強化や漁業者の利益に資する取組の拡充が求められている。
- また、現在の海業の取組が高浜漁港周辺に限られており、経済波及のすそ野を町全体に広げることや連係による魅力向上、波及効果の拡大が望まれている。更に、このような目標を達成するため、事代地区から塩土地区に施設移転・更新後の旧荷捌所や旧漁協事務所他、低利用地等、漁港施設の有効活用や景観形成等が望まれている。

【観光の概要】

- 高浜町は、観光拠点都市である京都府舞鶴市と福井県小浜市の間に位置し、古くから京阪神の海水浴のメッカとしての位置付けを持つと同時に、施設型（道の駅等）の立ち寄り観光等を中心に、コロナ禍以前は80万人～100万人水準の観光入込客数規模があった。
- 歴史的に海水浴中心の観光形態のため、SUP等のアクティビティ、釣り、漁業体験も実施しているが、利用が夏に集中するため、周年型の観光構築に向けて、春・秋・冬の海業資源の発掘と商品化が求められている。

【地域経済】

- 生産・販売は、全体で945億円の収入があり、そのうち労働生産性は全国平均と比較すると高くなっており、エネルギー生産性は225百万円/TJと全国平均より大幅に多い。
- 分配は、全体で677億円の収入があり、そのうち通勤で32億円支出しているが、財政移転では174億円の収入がある。また、本社等が高浜町でない企業への支出が410億円あり、高浜町の地域住民所得は1人あたり653.2万円と全国平均より高い結果となっている。
- 支出は、全体で945億円であり、そのうち高浜町内での消費は81億円の支出があるが、投資、経常収支、エネルギー代金は高浜町内での収入になっていることがわかる。



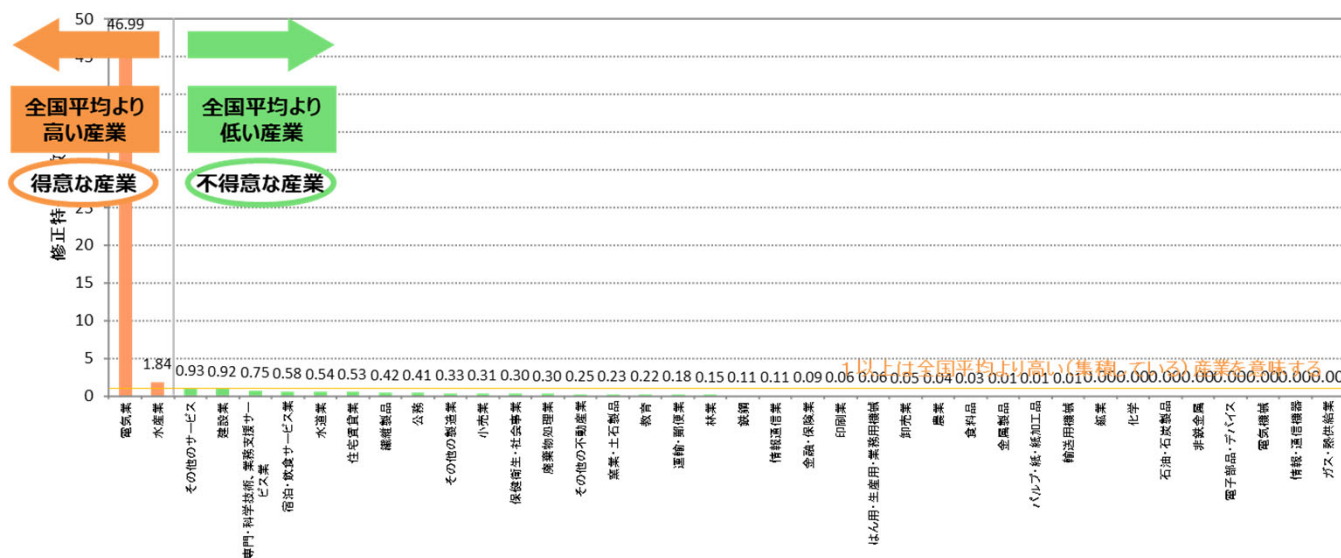
注1) 地域住民所得は、夜間人口1人当たりの所得(＝雇用者所得＋その他所得)を意味する。

注2) エネルギー代金の収支は経常収支の内数であり、原材料利用や本社・営業所等の活動(＝非エネルギー)は含まれない。※Ver5.0までは含まれる

[地域経済]

- 高浜町においては、全国と比較して電気業、水産業に比較優位性があり、付加価値額構成比も比較的高い傾向にある。

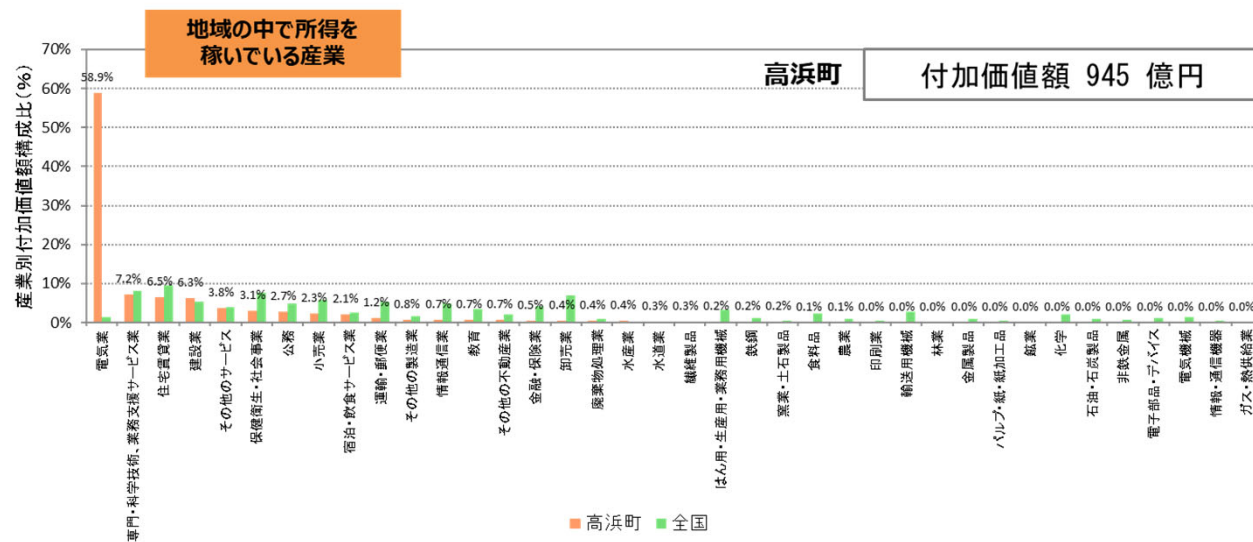
産業別修正特化係数（生産額ベース）



- ・生産額ベースでの産業別修正特化係数で見ると、水産業に比較優位性がある。

出所：「国民経済計算」、「県民経済計算」、「経済センサス」、「産業連関表」等より作成

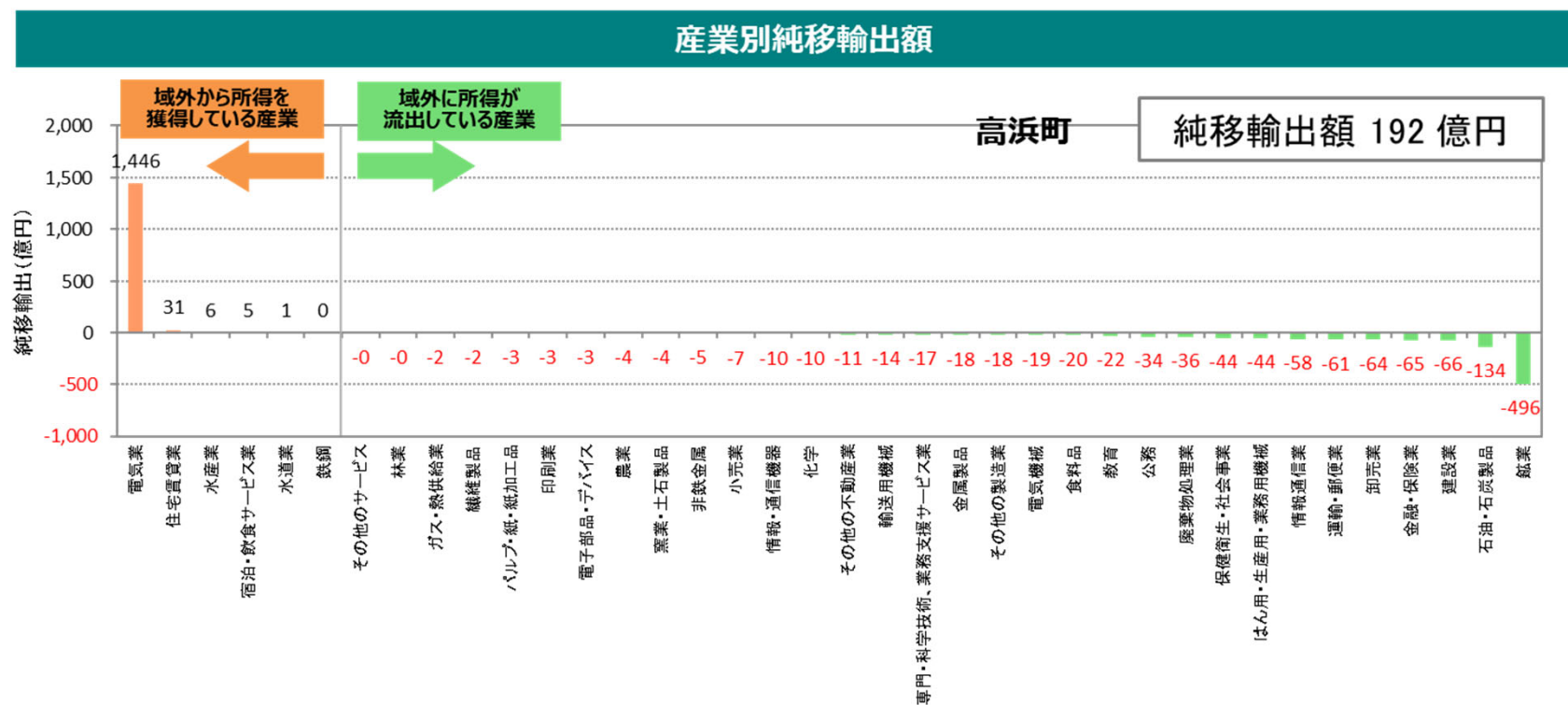
産業別付加価値額構成比



・産業別付加価値額構成比では、小売業2.3%、宿泊・飲食サービス業2.1%、水産業0.4%である。

【地域経済】

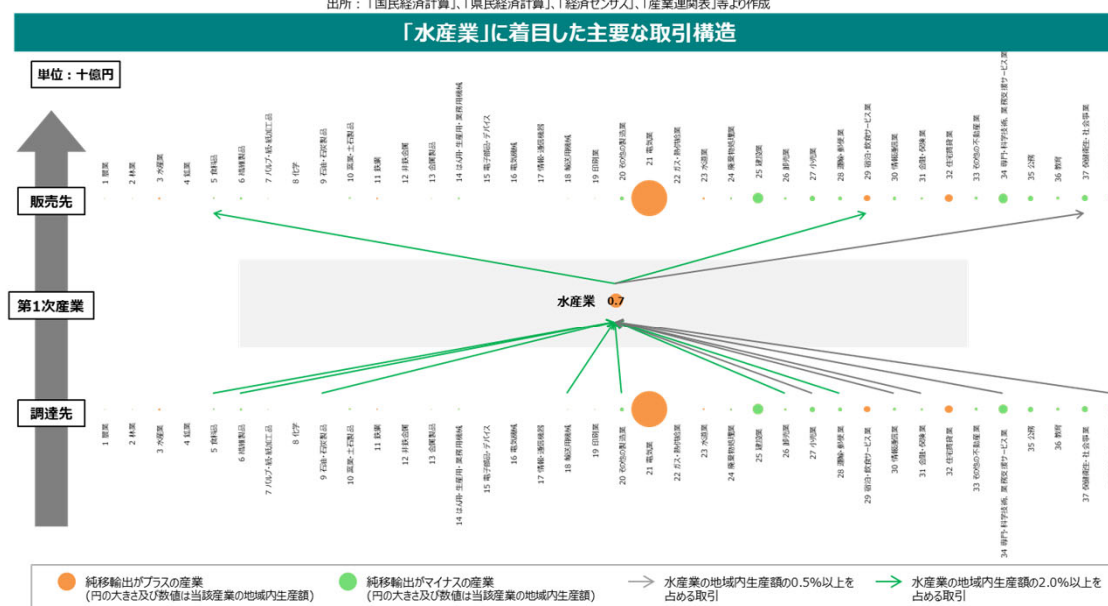
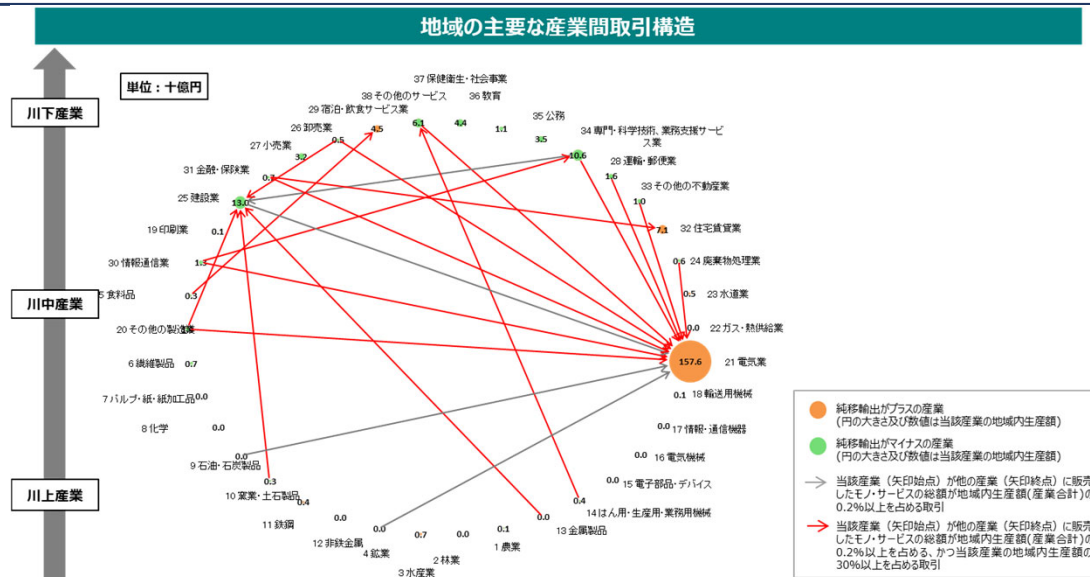
- 域外から所得を獲得している産業は電気業、水産業、宿泊・飲食サービス業等である。これらは、域内の生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。



出所：「国民経済計算」、「県民経済計算」、「経済センサス」、「産業連関表」等より作成

【地域経済】

- 高浜町の水産業は生産額 7 億円、純移輸出がプラスとなっており、地域内の需要を域内の生産で賄うことができている。
- 水産物を地域内の飲食店等へ販売するといったサプライチェーンを構築している可能性があり、宿泊・飲食サービス業は域外からも稼ぐ力を持っている。



・「水産業」に着目した主要な取引構造に着目すると、高浜町の水産業は生産額7億円である。また、運輸・郵便業、卸売業、その他の製造業からの調達が高位を占め、宿泊・飲食サービス業、食料品への販売が多く、宿泊・飲食サービス業に関しては純移輸出はプラスとなっている。

海業の事業計画骨子（案）【福井県高浜町 高浜漁港】①

1. 現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

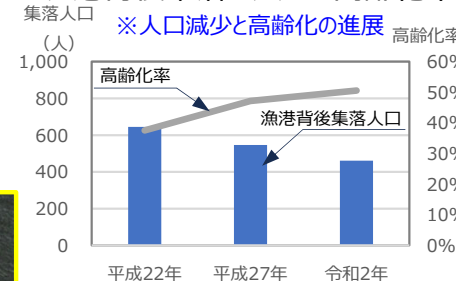
- 福井県の最西端、京都府舞鶴市、福井県小浜市という観光地にはさまれた町。若狭湾に面し、海水浴場として有名。
- 人口減少や少子高齢化への対応として平成21年に高浜町コンパクトシティ構想が策定され、高浜漁港はにぎわい・景観系と位置付けられた。高浜水産業振興協議会による検討を経て、漁港の再整備が進められ、令和3年に6次産業施設UMIKARA、令和5年に荷さばき所が移転し、衛生管理型の新たな荷さばき所が完成した。

【海業の現状と課題】

- 隣接する和田地区も含め海水浴場が多く、SUP等のアクティビティ、釣り、漁業体験も実施しているものの、利用が夏に集中するため、周年型の観光に向け、春・秋・冬の海業資源の発掘と商品化が求められている。
- 6次産業化施設で、直売所・レストランが開設されているものの、漁協経営強化や漁業者の利益に資する取組の拡充が求められている。
- 取組が高浜漁港周辺に限られており、すそ野を町全体に広げること、関係による魅力向上や波及効果の拡大が望まれている。
- 機能移転後の旧荷さばき所・旧漁協事務所や低利用地等、漁港施設の有効活用や景観形成等が望まれている。



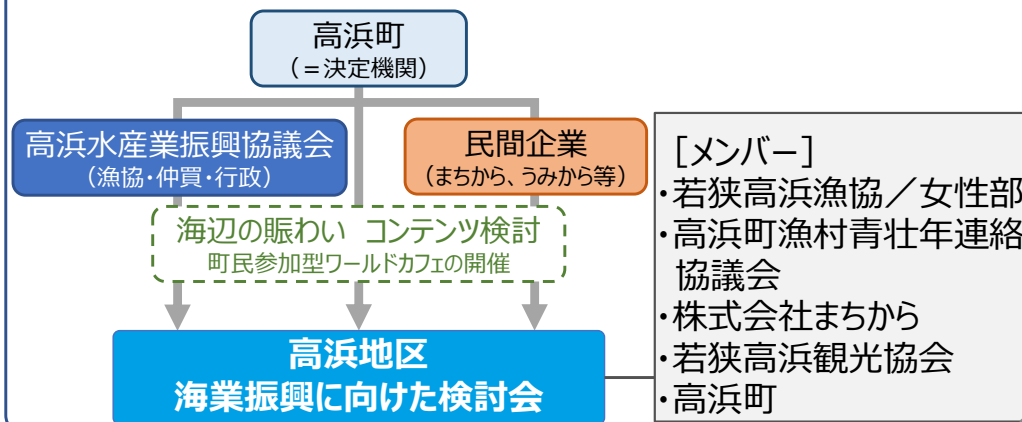
■ 漁港背後集落の人口と高齢化率



■ 高浜漁港の出荷先別配分数量



2. 検討体制



海業の事業計画骨子（案）【福井県高浜町 高浜漁港】②

3. 海業の方針

高浜町のにぎわい・景観を形作る核として、高浜漁港において高浜の水産物を活用した様々な海業（食・直売・体験等）を展開するとともに、既存資源の有効活用と海業拠点との連携、漁協経営強化・漁家所得向上システムの構築を図っていく。

【取組】

- 海鮮バーベキューや朝市・昼市鮮魚直売等による**高浜産水産物の消費拡大、付加価値向上**
- 漁船を活用した遊覧船や漁業体験、海の学校等、アクティビティの創出による地域の魅力の増大と漁業者の所得向上（※**兼業所得機会の創出**）
- 上記取組の支援と**海業のすそ野を広げる取り組みの展開**
（既存資源の有効活用、高浜町全体への効果の拡大、漁協経営強化、漁業所得向上システムの構築 等）



4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

①海鮮バーベキュー場（民間）

【期待される効果】

- 高浜産水産物の消費拡大
- 漁業者の所得向上
- 観光客の滞在時間の増加
- 賑わいの創出

○実証試験の実施： 海鮮バーベキュー場

※仮設の施設等による試験実施
（駐車場予定地を活用）

②遊覧船事業（発着場整備：高浜町、運営：民間）

※内浦湾の大断崖等をめぐる漁船遊覧船クルーズ

【期待される効果】

- 観光客の滞在時間の増加
- 観光地としての魅力増大
- 地域の雇用創出

③漁業体験（セリ/定置網水揚げ見学等）（漁協又は漁業者有志）

※網あげ見学体験は遊覧船発着場又は和田港活用

【期待される効果】

- 観光客の滞在時間の増加
- 観光地としての魅力増大
- 高浜の水産業の理解増進
- 漁業者の所得向上

④朝市・昼市鮮魚直売（漁協又は漁業者有志）

※荷さばき所と出荷調整施設間の道路を一時占有で活用

【期待される効果】

- 観光地としての魅力増大
- 高浜の水産業の理解増進
- 高浜産水産物の消費拡大
- 漁業者の所得向上

⑤旧漁協事務所・用地の活用

※城山地区の整備状況を踏まえて総合的に検討（駐車場等も検討中）（長期計画）



※隣接の和田地区
和田港（定置網の
基地）白浜海水浴
場・鳥居浜海水浴場

海業推進に向けた事業計画書案について

■事業計画書 記載項目

策定者		
協議会メンバー		
対象地域と対象漁港		
地区の概要	地区の現状	地区の概要、産業構造と人口の推移、漁業の概要、観光の概要 等
	上位・関連計画	上位・関連計画との関係、位置づけ
	地域の課題	上記を踏まえて地域の課題を整理
海業の概要	海業の目的	目的（ミッション）、地区が目指す将来像
	実施する事業	実施する事業、事業主体、実施時期等
	地域資源や魅力の活用	活用する地域資源や魅力、事業での活用方針、域内調達
	漁港ストックの活用方針	漁港ストック、およびその活用方針
	事業の効果	地元水産業の発展に寄与する内容、地域に与える効果
実施する各事業の ビジネスモデル	ビジネスモデル	何を、誰に、どのように提供するか、価格帯、見込客数等
各事業の実施項目と実施主体、活用したい支援事業等		
体制、人員計画、関係者の役割分担		
実施に向けた手続き・調整事項	手続き	各事業の実施に向けた具体的な手続き
	調整事項	今後必要となる調整事項の整理
財務計画	資金の検討、収益の検討	
実施にむけたタイムスケジュール案（これまでのまとめ）		

海業で実施する事業の内容と体制案

■事業の概要

海鮮バーベキュー場事業

■事業の概要：

地元水産物を中心とした**全天候型・通年型**の**海鮮バーベキュー場**を整備・運営する。

■事業主体：

〔施設整備〕 高浜町 〔施設運営管理〕 民間事業者

■実施時期：

令和 6年 ： 実証実験
令和10年頃： 事業開始予定（中期）

■取扱商品：

高浜産水産物を中心とした海産物をバーベキューで楽しむことができる機会・**新たな体験の場**の提供
(バーベキュー用具とスペースの貸出)

■サービスの内容と価格：（エリア利用料）

1人2時間 1100円（550円/時間）
～ 2200円（1100円/時間）

※場所貸しのみ。**食材はUMIKARAで購入**

■取扱商品、サービスのセールスポイント

- ・風光明媚かつ海辺という**良好なロケーション**。
- ・**手ぶら**で楽しめる。
- ・全天候型で**ソファ**などが設置された**快適な空間**

■販売ターゲット、見込事業者、販売戦略

ターゲット： 京阪圏からの海水浴客、
マリンスポーツ愛好家、アウトドア愛好家等

見込客数： 実証実験時見込 9,000人（4～11月）

販売戦略： ラジオ、SNS等での宣伝。京阪圏での宣伝
デジキューの活用 等

■競合・市場など企業を取り巻く状況：

BBQの市場規模は約2,400万人。

近年、**高級感のあるバーベキュー施設**のニーズは高い。

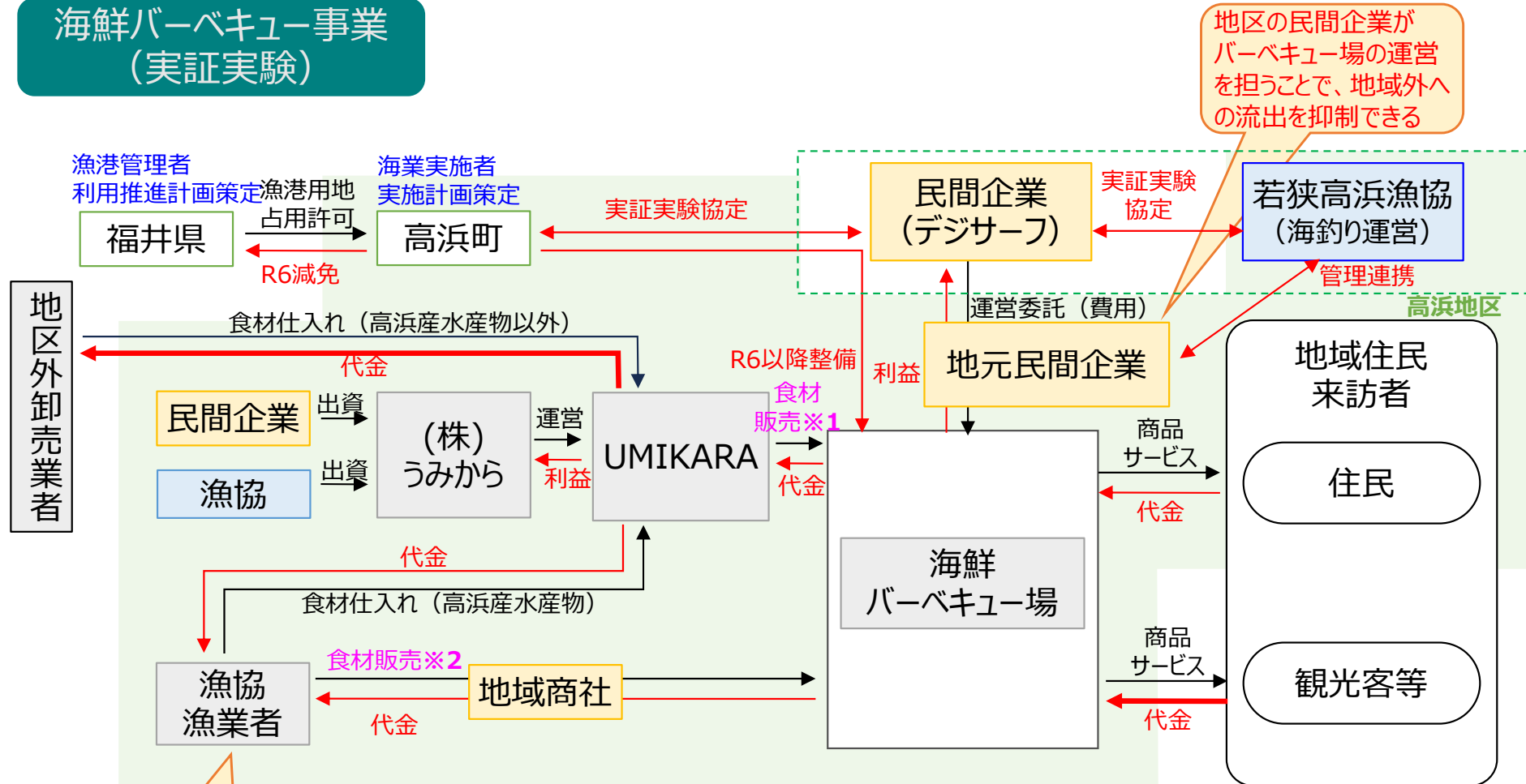
近隣にキャンプ場等のアウトドア系の施設はあるが、**通年型のバーベキュー施設**はほとんどない。

海鮮バーベキュー実証実験イメージ



■ 海業の関係主体間の経済関係

海鮮バーベキュー事業 (実証実験)



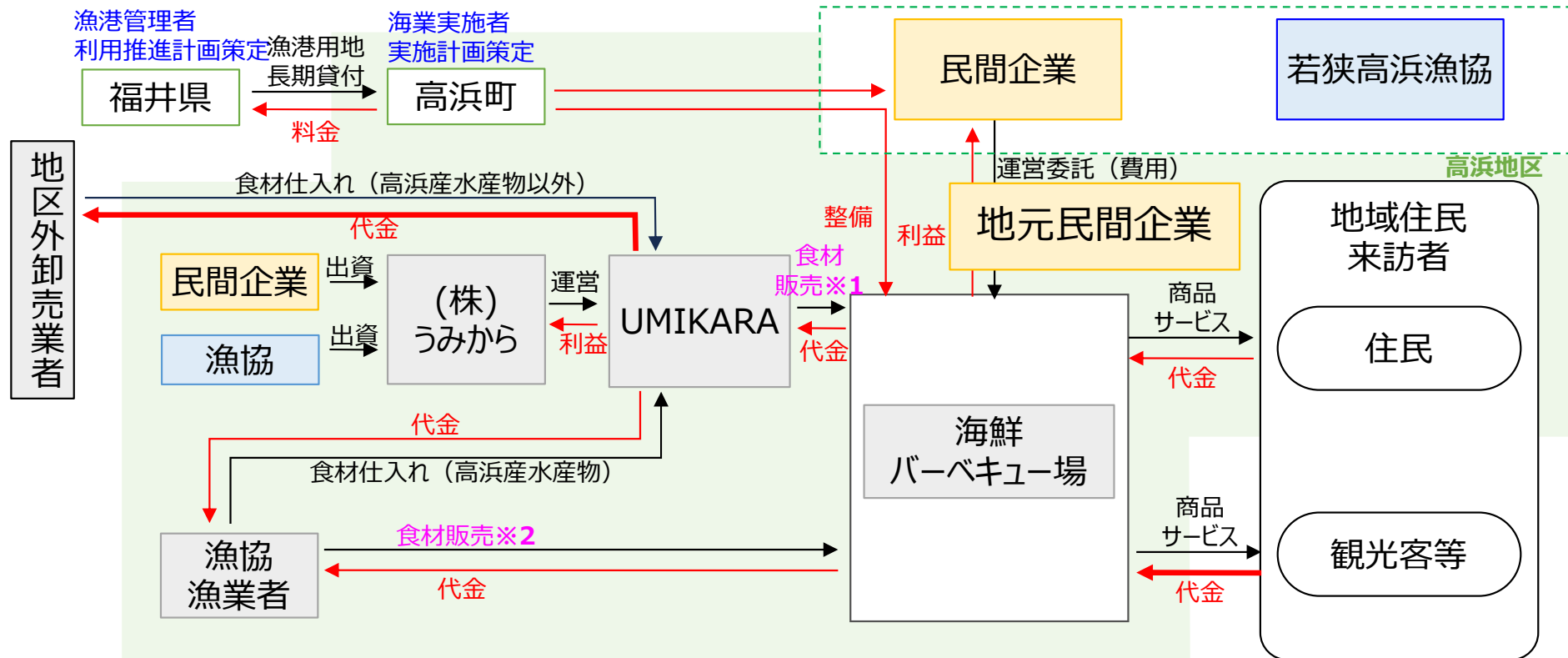
高浜産水産物が売れれば、地域外への経済流出が抑制できる

食材販売※1：海鮮バーベキュー場は場所貸しのみであり、利用者はUMIKARAで食材を調達する。

食材販売※2：予約性等により、漁業者から一部の食材を調達できるようにすることで漁業者の所得向上に資するようにする。(貝類等)
(UMIKARAとの競合については要調整)

■ 海業の関係主体間の経済関係

海鮮バーベキュー事業 (実施)



食材販売※ 1 : 海鮮バーベキュー場は場所貸しのみであり、
利用者はUMIKARAで食材を調達する。

食材販売※ 2 : 予約性等により、漁業者から一部の食材を調達できるようにすることで
漁業者の所得向上に資するようにする。(貝類等)
(UMIKARAとの競合については要調整)

■事業の概要

遊覧船事業

■事業の概要：

海業拠点である高浜漁港を発着点として和田港や定置漁場、内浦湾の大断崖等をめぐる**漁船及び遊覧船クルーズ**の運行サービスを定着させる。

■事業主体：

[施設整備] - (UMIKARA前面の物揚場の一部を不定期利用)

[施設運営管理] 民間事業者・遊漁船事業者

■実施時期：令和 6年～**イベント時に試験的に実施**

■取扱商品：

高浜漁港を発着点とした、漁船クルージング（**本物の漁船に乗船する非日常体験**）・遊覧船運航

■サービスの内容と価格：

40分～1時間 3000～4000円/大人

■取扱商品、サービスのセールスポイント

- ・漁師との対話
- ・水上バス型の遊覧船で若狭湾の景色を楽しめる
- 2つのコースより好きな方を選定

■販売ターゲット、見込事業者、販売戦略

ターゲット：京阪圏からの海水浴客、教育旅行

見込客数：3,000人（冬季除く）

販売戦略：パッケージ化による過ごし方提案、SNS

■競合・市場など企業を取り巻く状況：

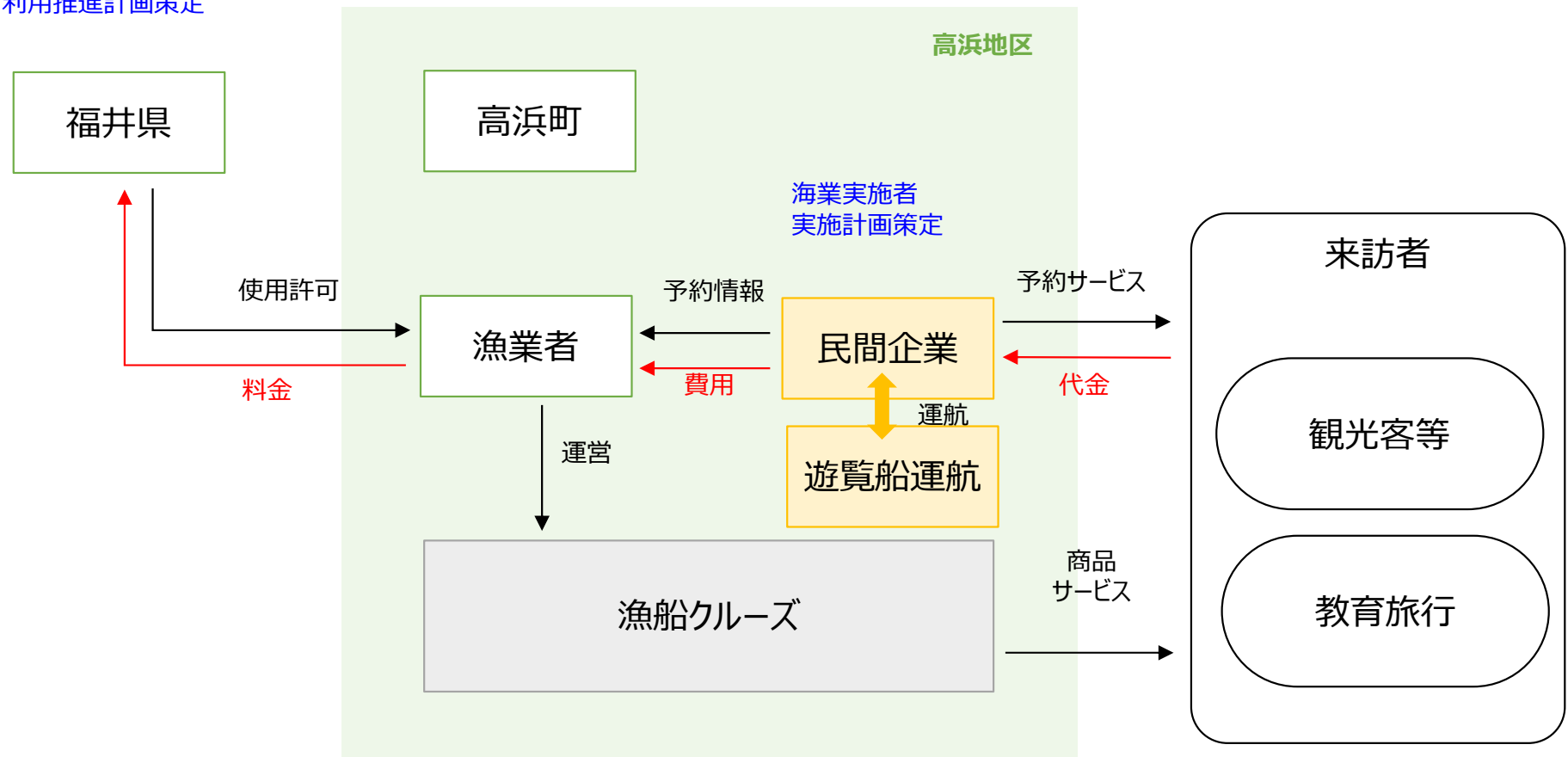
近隣にいくつかの遊覧船コースがある。高浜地区の他のアクティビティと組合せられるようにコースを作る等して、差別化を図る必要がある。

※現在、和田港（漁協和田支所所属）の漁業者が和田港を起点に実施している。

■ 海業の関係主体間の経済関係

遊覧船事業

漁港管理者
利用推進計画策定



■事業の概要

漁業体験事業

■事業の概要：

教育観光受け入れを見据え、若狭高浜漁協魚市場を活用したセリ見学体験や定置網の水揚げ見学等の魅力的な漁業体験モデルを構築する。

■事業主体：

〔施設整備〕－（若狭高浜漁協魚市場やUMIKARA 前面の物揚場、和田港を不定期で利用）

〔施設運営管理〕民間事業者（（株）まちから）

■実施時期：

令和5年10月より見学ツアー受入れ開始（短期）

■取扱商品：

- ・若狭高浜漁協魚市場を活用したセリ見学体験
- ・定置網の水揚げ見学

■サービスの内容と価格：

セリ見学体験 1時間 2500円

定置網水揚げ見学 1時間 2500円（案）

※いずれも お土産or朝ごはん付き

■取扱商品、サービスのセールスポイント

- ・地魚案内人による案内
- ・朝採れ

■販売ターゲット、見込事業者、販売戦略

ターゲット：京阪圏からの海水浴客、教育旅行

見込客数：検討中

販売戦略：SNSや各HP

■競合・市場など企業を取り巻く状況：

小浜に朝セリの見学ツアーがあり。若狭小浜お魚センターで購入した水産物を朝食として食べるコースとなっている。参考：若狭の朝競り見学ツアー【七輪焼きの朝食付き】

<https://sabakaido-travel.com/tour/plan1/>

朝市・昼市鮮魚直売事業

■事業の概要：

漁協（自営定置）や市場と連携して、定置水揚げの鮮魚を昼市又は朝市の形態で販売する※。

■事業主体：

〔施設整備〕－（魚市場を不定期で利用）

〔施設運営管理〕民間事業者（（株）まちから）

■実施時期：令和 6年～地域おこし協力隊が月 1 で UMIKARA前で企画・運営中

■取扱商品：

高浜産水産物を中心とした海産物を生産者から直接購入できる。

■サービスの内容と価格：

客単価 1000円～3000円

■取扱商品、サービスのセールスポイント

- ・漁港が目の前、新鮮な水産物を浜買いできる臨場感

■販売ターゲット、見込事業者、販売戦略

ターゲット：高浜町内および近隣市町村住民、観光客

見込客数：検討中

販売戦略：SNSやHP、チラシ等

■競合・市場など企業を取り巻く状況：

朝市、昼市等、市場形式の鮮魚直売は一般に多くの客を呼べ、小浜に常設のお魚センターがある（知名度は高い）。

観光客だけではなく、近隣市町村住民をターゲットに、定期開催でリピーターを確保し、安定した売り上げにつなげることが重要。

※現在、土曜昼市は（株）まちからが主催していることもあり、加工品が中心になっているが、利用者からは、鮮魚販売を望む声も多い。

セリ見学を盛り込んだエリアでのツアー受入

10月～1月
6回 92名の受入

【地魚案内人ツアー】タイムスケジュール(参考)

条件
人数: 10～40名
天候: 晴れ

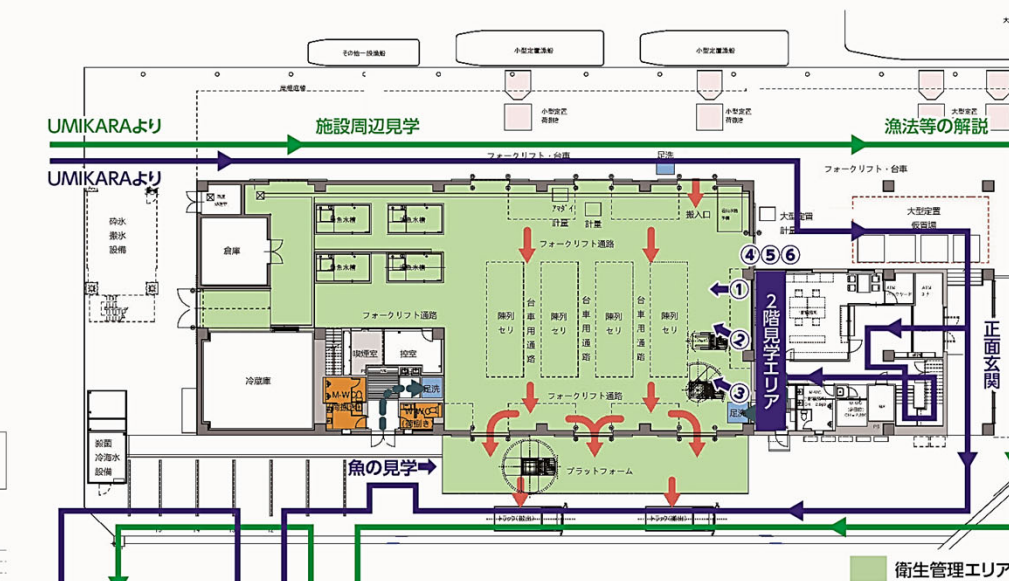
バス到着	セリ開催の場合 【所要時間120分】		セリ中止の場合 【所要時間120分】	
	10:00	14:00	10:00	14:00
5	降車・挨拶・コース紹介 (うみから食堂前:3分)	降車・挨拶・コース紹介 (うみから食堂前:3分)	降車・挨拶・コース紹介 (うみから食堂前:3分)	降車・挨拶・コース紹介 (うみから食堂前:3分)
10	荷崩き・水揚げ・旬魚説明 (荷崩き海側:7分)	荷崩き・水揚げ・旬魚説明 (荷崩き海側:7分)	荷崩き・水揚げ・旬魚説明 (荷崩き海側:7分)	荷崩き・水揚げ・旬魚説明 (荷崩き海側:7分)
15	シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)	シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)	シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)	シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)
20	見所 漁法説明・セリ見学 (セリ見学エリア:7分)	見所 漁法説明・セリ見学 (セリ見学エリア:7分)	見所 魚紹介【はもと】 (荷崩き海側:7分)	見所 魚紹介【はもと】 (荷崩き海側:7分)
25	シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)	シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)	見所 試食 (出荷選別棟:7分)	見所 試食 (出荷選別棟:7分)
30	見所 魚の搬出【仲買】 (荷崩き海側:5分)	見所 魚の搬出【仲買】 (荷崩き海側:5分)	UMIKARAへ移動 (3分)	UMIKARAへ移動 (3分)
35	見所 試食 (出荷選別棟:7分)	見所 試食 (出荷選別棟:7分)	いけす見学 (UMIKARA:5分)	いけす見学 (UMIKARA:5分)
40	UMIKARAへ移動 (3分)	UMIKARAへ移動 (3分)	買物 (UMIKARA:20～30分)	買物 (UMIKARA:20～30分)
45	買物 (UMIKARA:20～30分)	買物 (UMIKARA:20～30分)	食事 (うみから食堂:45～60分)	食事 (うみから食堂:45～60分)
50	食事 (うみから食堂:45～60分)	食事 (うみから食堂:45～60分)		

【所要時間120分】

降車・挨拶・コース紹介 (うみから食堂前:3分)
荷崩き・水揚げ・旬魚説明 (荷崩き海側:7分)
シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)
見所 魚の搬出【仲買】 (荷崩き海側:5分)
見所 試食 (出荷選別棟:7分)
UMIKARAへ移動 (3分)
買物 (UMIKARA:20～30分)
食事 (うみから食堂:45～60分)

【所要時間120分】

降車・挨拶・コース紹介 (うみから食堂前:3分)
荷崩き・水揚げ・旬魚説明 (荷崩き海側:7分)
シューズカバー・F移動 (備忘玄関:5分)
見所 魚の搬出【仲買】 (荷崩き海側:5分)
見所 試食 (出荷選別棟:7分)
UMIKARAへ移動 (3分)
買物 (UMIKARA:20～30分)
食事 (うみから食堂:45～60分)



UMIKARAへ
出荷選別施設(魚商の倉庫)

【2階見学エリア】

★セリ中止、終了後到着

- 施設周辺見学
(製氷機・寄り台・大型秤・ダンベ等)
- 漁法等の解説
- 出荷選別施設前に移動
- 魚商倉庫にて刺身試食
- UMIKARA生簀見学
(状況により実施)
- UMIKARAで買物

【2階見学エリア】

★セリ開催時

- 正面玄関にて靴カバー着用
- 2階見学エリアへ移動、見学
- 語り部説明(セリ、漁法等)
- 正面玄関で靴カバー回収
- 出荷選別施設前に移動
- セリ落とされた魚の見学(魚商)
- 魚商倉庫にて刺身試食
- UMIKARAで買物

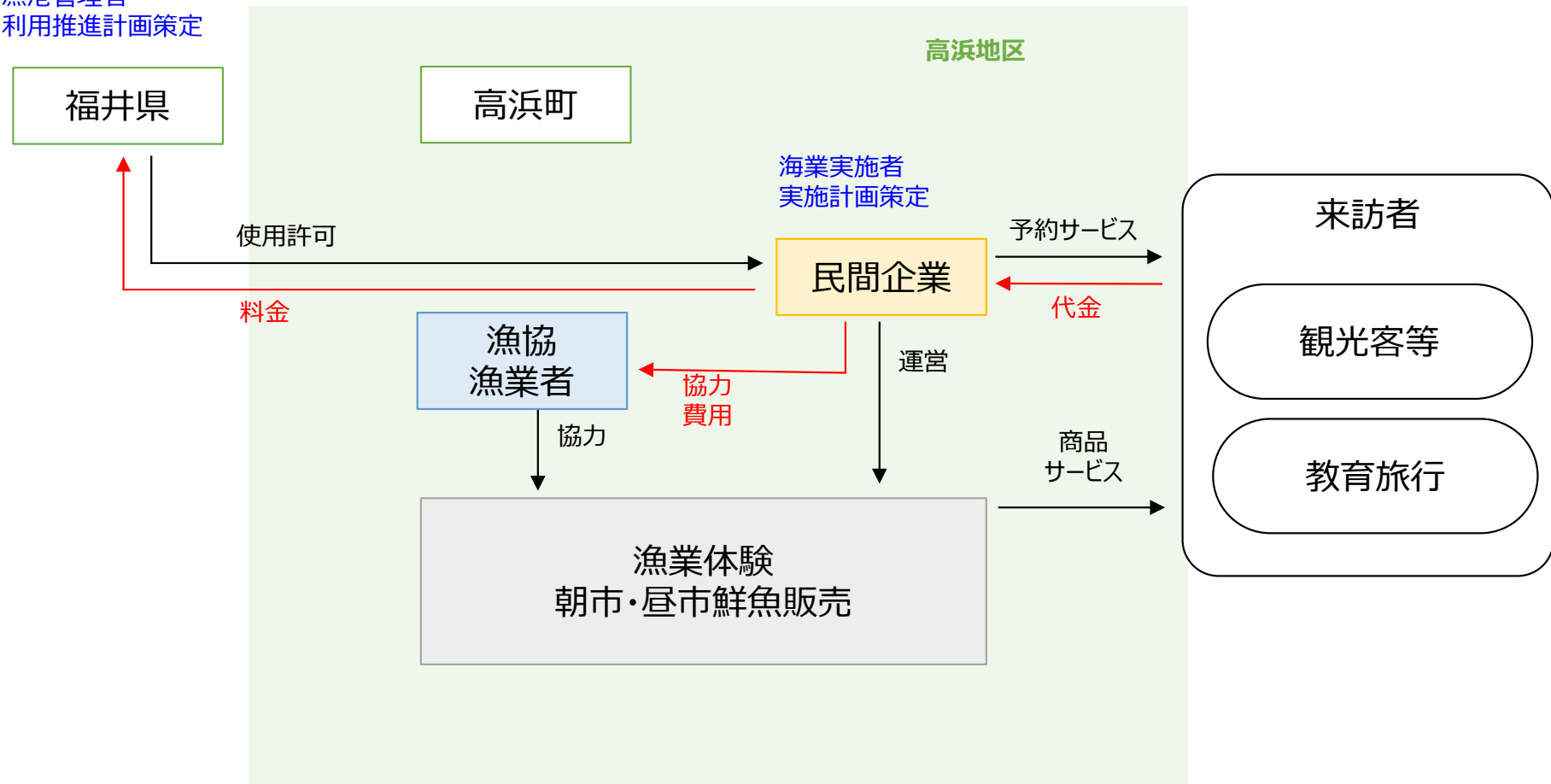


○雨天の場合は漁協2F会議室にて試食を行う等の対応可能

■ 海業の関係主体間の経済関係

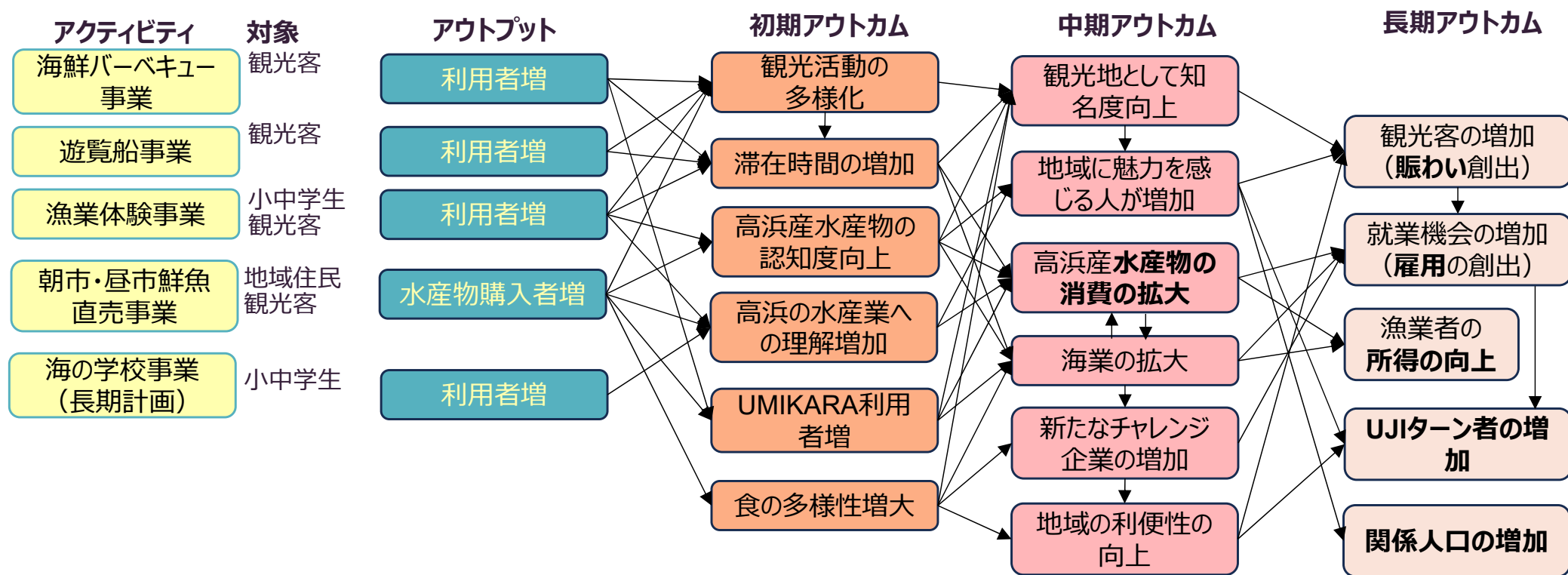
漁業体験事業、 朝市・昼市鮮魚販売事業

漁港管理者
利用推進計画策定



海業の推進により期待される効果

事業の効果（ロジックモデル）



■事業の効果例（想定）

項目	効果
①交流人口・関係人口の増大	交流人口として以下を想定する。 ・海鮮バーベキュー場利用者 約1万人 ※通年利用を想定した場合 ・遊覧船事業 約3,000人 ※4月～11月の土日祝（お盆）大人・小人計 ・漁業体験事業 約1,500人 ※R5教育旅行実績約3,500人のうち半分が利用と想定 ・朝市・昼市鮮魚直売事業 約1200人 ※毎月1回開催、1回100人を目標 ・上記コンテンツによる宿泊者増加を期待 R5実績約14万人×5% = 7,000人
②水産物消費拡大	・海鮮バーベキュー 食材費2000円×5,000人 UMIKARAの水産物売上増大 ・漁業体験事業 1500円×600人 朝食・土産の消費拡大 ・朝市・昼市鮮魚直売事業 2000円×600人 直販売上増大
③海業消費額の増大	・海鮮バーベキュー 席料1000～2000円×1万人 ・漁業体験事業 体験分1000円×750人
④海業実施企業の売上増大	【BBQ事業】 ・利用料収入：約1,000万円 ・飲食費：約1,300万円 うち海産物 0.5%想定 約650万円 ・駐車場収入の増大 140万円／年 波及効果：漁協指定管理の海釣り公園利用客増 宿泊者増
⑤地域内調達の増大	・海鮮バーベキュー、朝市・昼市鮮魚直売等での水産物提供による、地域の水産物の調達の増大
⑥雇用の増大	・海鮮バーベキュー場：管理者1人 スタッフ3名
⑦地域の産業の振興	・地域の水産業の振興 ・地域の水産加工業の振興 ・観光誘客による地域入込数増 ・早朝及び夜間滞在コンテンツによる宿泊者増
⑧後継者確保	・水産・水産加工業関連の所得が増え、後継者確保に貢献 ・副業・兼業機会の創出による後継者確保
⑨地域人口の維持・増大	・高浜漁港に賑わいをつくり、水産・水産加工業関連の所得確保、他産業への波及を図ることで地域人口維持に貢献。

想定されるスケジュール案

事業名	事業主体	実現までの実施事項				実施時期										
		実施項目	概要	実施主体	活用したい支援事業	短期					中期					長期 R16 ～
						R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
前提		漁港施設活用推進計画の策定	高浜漁港の漁港施設活用にあたっての各事業の内容や区域等を決定	福井県												
		漁港活用の実施計画策定	地域水産業の消費増進や交流促進に関する実施計画を策定	高浜町												
海鮮バーベキュー場事業	高浜町	実証試験	民間企業の協力により、簡易的な海鮮バーベキュー施設を設置し試験営業を行う。	高浜町 民間企業	－											
		海鮮バーベキュー場の基本計画の策定	実証試験を踏まえ、海鮮バーベキュー場の広さ、区画数、位置、コンセプトやデザイン等を検討する	高浜町	－											
		海鮮バーベキュー場の設計・施工	計画に基づきバーベキュー場の設計・施工を行う	高浜町	－											
		運営者との協議・契約	運営者を決め、運営の詳細について取り決める。	高浜町	－											
遊覧船事業	民間事業者 (うみから)	実証試験	イベント時に試験的に運行。	民間企業	－											
		商品開発	実証試験を踏まえ、プログラムを構築		－											
		定期運航に向けた準備	定期運航に向け必要な許可等の取得、手すり等漁船の改良などを実施。													

★ 実施 →

★ 定期運航 →

想定されるスケジュール案

事業名	事業主体	実現までの実施事項				実施時期										
		実施項目	概要	実施主体	活用したい支援事業	短期					中期					長期 R16 ～
						R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
漁業体験事業	民間事業者 (まちから)	実証試験	イベント時に試験的に運行。	民間企業	—											
		商品開発	実証試験を踏まえ、プログラムを構築		—											
		定期開催に向けた準備	定期的な実施に向け必要な許可等の取得などを実施。		—											
朝市・昼市鮮魚直売事業	民間事業者 (まちから)	実証試験	イベント時に試験的に運行。	民間企業	—											
		商品開発	実証試験を踏まえ、プログラムを構築		—											
		定期開催に向けた準備	定期的な実施に向け必要な許可等の取得などを実施。		—											

■ 海業の推進に向けて今後進めるべきこと

☆ 高浜漁港を中心とした町内全域の海辺に係る調査や基本計画の策定 波及効果等の検証

【推進事項】※計画策定と並行して実証によるニーズ発掘も進める

漁協の収入アップ!!

・海鮮バーベキュー場の実証実験後、事業化に向けた調整等

地元の魚をもっと売る!!

・各種取組の実証実験を踏まえた、漁協経営強化・漁家所得があがる仕組みを検討

情報技術をフル活用!!

・既存資源の有効活用と各者連携とメディア等を活用した積極的な情報発信・情報公開